

工学部 Student Satisfaction
 向ヒツツカヒ
 (工学部学生支援センター)



工学部学生委員会委員長

船崎 健一

日本の国立大学は、平成16年4月から一斉に国立大学法人という、それぞれ独立した教育機関として再スタートを切りました。これから各大学には今まで以上に特色ある教育・研究システムの確立が求められています。18歳未満人口の減少に伴う大学全入時代を目前に迎えて、魅力ある教育・研究システムとの構築に失敗した大学は、生き残りが難しいとも言われています。若手大学では、慎重な審議を経て中期計画・中期目標をたて、その目標達成に向け動き始めています。計画を「仏」とすれば、次はそれとどのように「魂」を入れるかが問われます。以下に学生支援の部分について私の「魂の入れ方」を述べたいと思います。

大学が学生の皆さんに提供すべきサービスの基本は良質の教育であることは論を待ちませんが、学生の皆さんが心ゆくまで勉学に打ち込み、また、心身ともに成長するための総合的な学習・福利厚生環境を提供することも大学の重要なサービスの一つです。私たち学生委員会は、奨学金や授業料免除などの金銭的支援、学生寮などの福利厚生施設の充実などをはめとして、学生の皆さんが充実した学生生活を送るための様々な支援のあり方を検討する委員会です。独立化後の若手大学を今まで以上に魅力あふれる大学にするべく、ルーチン的な業務にとまらず、可能な範囲で改善改良に努めていかなければなりません。また、どのようなサービスを望んでいるのかを、直接学生の皆さんからお聞きすることも必要でしょう。これに関しては、従来からも所謂「目安箱」を設置し、学生の皆さんからの希望等何う機会を設けてきました。が、今後は学生の皆さんにより近いところで、生の声を直に聞くこともすくなく実行したいと考えております。

学生の皆さんの勉学を支援する方策として、オフィスアワーの活用があります。これは若手大学の中期計画の中でも謳われていますが、自発的な学習を促進するため、全教員が学生の皆さんのために時間を空けておき、その時間帯は学生との対応を最優先する、というものです。学生の皆さんからの質問には随時対応するのは当然ですが、質問に行った際にも不在であったり、忙しそうにしていて相談しづらい雰囲気であったりしては、誰も次に足を運ばなくなってしまいます。他大学では既に実施していることですが、工学部でもそのような先例に学びつつ、制度の改良や教員への制度の周知徹底に努めていきます。

これからの大学にとり、学生の皆さんの心のケアは重要な課題です。学生の皆さんは、程度の差はあれ、様々な悩みを抱えており、若さゆえの深い悩みの底に沈んで苦しむことも少なくありません。悩んで大きくなるとはいえ、手助けが必要な場合もあります。そのような学生さんに対しては保健管理センターのカウンセラーがお役に立

つかと思いますが、悩みの原因は多様でありカウンセラーの守備範囲を超える場合もあるでしょう。相談に行くことすらできない学生もいるはずですが、そのような時、普段接する機会が多い教員（特に担任）が苦しんでいる学生からの何らかのサインを汲み取り、学生の心の奥底にある悩みを聞き出す努力も必要です。ただ、大学の教員全てが、トレーニングや経験の積み重ねに、悩みを抱える学生の皆さんの相談相手になれる訳ではありません。私は、特に担任となる教員への研修の実施など、学生指導のプロを養成するための機能が大学に必要だと考えます。「大学には学生指導のプロはいないの?」とお叱りを受けそうですが、従来の大学の教員は、主に研究業績で選ばれ、また評価されてきた経緯があり、教育や学生指導のトレーニングは、自らの経験とOJYによるのみです。教員の俊性に強く依存するこのシステムは、それ自体大学の魅力を形成している訳ですが、多様な個性や価値観を有する学生が多く在籍するようになった現在、従前通りという訳にはいかないでしょう。また、来年度から施行となる予定の転学料制度が円滑に運用されるためにも、担任の役割は従来以上に重要になってきています。このような状況を踏まえ、工学部では「学生指導教員連絡会（仮称）」の設置について検討を開始しており、学生の皆さんへの組織的支援を可能にするための教員の緩やかな組織化を行い、担任マニュアルの整備や研修制度の確立、カウンセラーとの連携、などを進めていく予定です。また、不登校や休学という状態に陥る前に何らかの対応を速やかに取るために、欠席状況をタイムリーに調査する方策も検討中です。

「学生を甘やかしているのでは?」「子供扱いしているのでは?」というご批判が出るかもしれませんが、学生委員会は、学生の皆さんがルールを守らなかつたり、自己中心的な振る舞いをした場合には注意をしたり、場合によっては処分などを検討することも役目の一つです。しかし、若く鋭い感性に富む学生の皆さんは、私たち教員が当たり前のように感じていることへの疑問や提案を投げかけてきます。それらに耳を傾けることは、実現や解決が困難なことも多いのですが、大学での様々な学生支援制度の改善にとり貴重なことです。学生に頼むのではなく、若手大学の大切な構成員である学生の皆さんと共によりよい若手大学を作り上げていく、というスタンスが大学に必要です。

豪華さを売りにする大学があります。新設された大学は羨ましいほど立派な建物があるのが大半です。残念ながら若手大学は、昔の頃は豪華さを売りにすることはできませんが、伝統と実績に裏打ちされた学問の府として、充実した教育研究の場と学び舎としての総合的環境をこれからも提供し続けていきます。